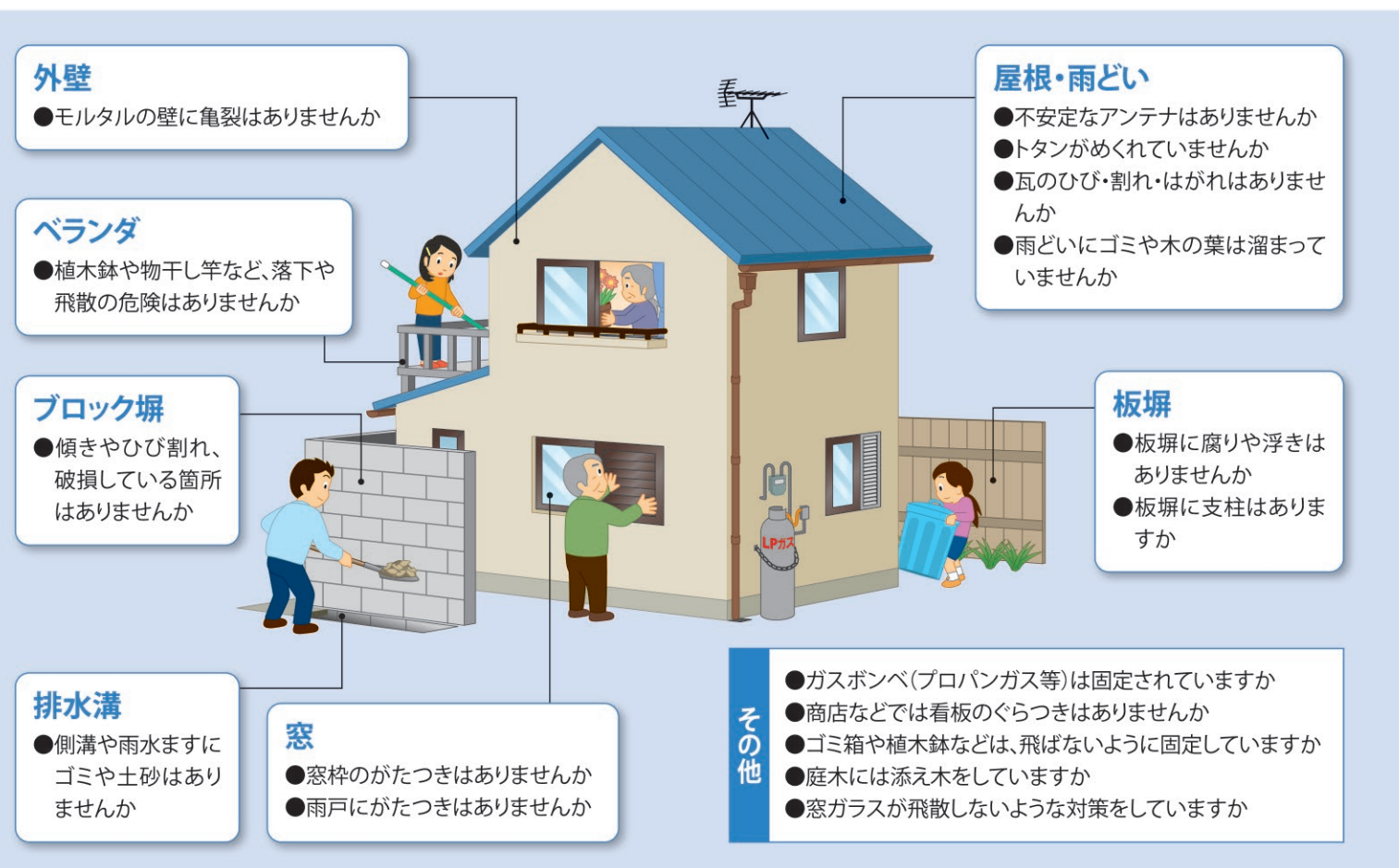


家屋の被害を抑える

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。



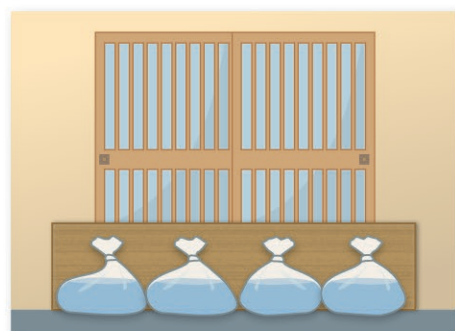
家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう(ない場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。



簡易水防工法例①
プランター+ビニールシート

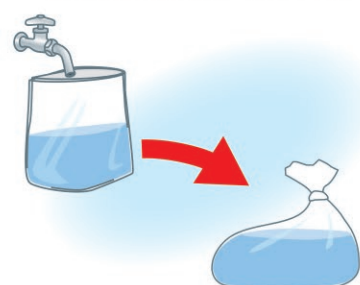
土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。



簡易水防工法例②
簡易水のう+止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせて出入り口に設置し、浸水を防ぎます。

「簡易水のう」の作り方



家庭で使用しているごみ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

避難の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また災害の危険性が想定された場合には、積極的に情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。



状況により、すばやく避難しましょう

避難情報が発表されていなくても、状況などから判断し自主的に避難しましょう。



住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう

特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身につけて避難しましょう。



車での避難は控えて

車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は避けましょう。



持ち出し品は最小限に

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



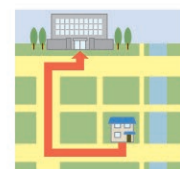
外出中の家族には連絡メモを残そう

「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくとい良いでしょう。



集団で助け合おう

単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。



安全なルートで避難

川べり、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。



避難所では係の人の指示に従いましょう

避難所に着いたら、住所、氏名を報告しましょう。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、遠くにある安全な場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行うという判断も必要です。



浸水後の避難 やむを得ず移動する場合は…



歩ける深さ

浸水時に歩ける深さは膝くらいまで。腰まで浸かって歩くと体力を消耗します。また、水深20cm位でも、流れが速い場合は危険を伴うことがあるので注意が必要です。



足もとに注意

浸水により足もとが見えにくくなることで、道路と側溝や水路等の区別がつかなくなります。長い棒などで深い場所がないか安全を確認しながら歩きましょう。